

第 82 回分析化学討論会 —講演申込スケジュール—

第 82 回分析化学討論会については下記の通り開催の予定です。なお、講演募集、参加登録の案内については本誌 12 月号「お知らせ」欄に掲載いたしますが、全て web 上からの申込、要旨提出となります。皆さまのご参加を心よりお待ち申し上げます。

注意 下記のうち「開催期日」以外については、新型コロナウイルス感染症の動向により大幅に変更となる可能性があります。最新の情報については、第 82 回分析化学討論会 HP を必ずご確認ください。(「第 82 回分析化学討論会、関東支部」などで検索できます。)

記

開催期日 2022 年 5 月 14 日 (土)・15 日 (日)

会場 茨城大学水戸キャンパス (水戸市文京 2-1-1)

講演申込開始 2021 年 12 月 15 日 (水)

講演申込締切 2022 年 1 月 26 日 (水)

講演要旨提出締切 2022 年 3 月 9 日 (水)

討論会 web サイト

<https://kanto.jsac.jp/2022ibaraki-touron/>

(12 月には正式なサイトが開設されますが、上記ページにもリンクが張られます。)

2021 年度イオンクロマトグラフィー分析士 (初段) 試験

主催 (公社)日本分析化学会イオンクロマトグラフィー研究懇談会

イオンクロマトグラフィー分析士 (以下、IC 分析士) は、(公社)日本分析化学会分析士認証委員会が認証する資格であり、IC に関する知識・技量の向上、並びに我が国の分析界の発展に貢献することを目的としております。

IC 分析士認証試験は、2019 年からの世界的なパンデミックの影響を避けると同時に、全国の IC ユーザーが受験できるように、リモート方式での実施となります。リモート試験への移行にあたりカンニングの可能性を危惧される声もありましたが、リモート試験の専門業者にご協力いただき、その課題も解消しております。また、リモート試験を採用するにあたり、全国の受験希望者を受け入れることができるメリットもありますので、今後も継続いたします。

1. 試験日

1-1. 日時：2022 年 1 月 24 日 (月) 午後 2 時～午後 3 時 30 分 (90 分)

1-2. 試験方式：リモートによる筆記試験 (50 問、1 問につき 4 つの選択肢から一つ選択)

1-3. 受験料：9,900 円 (税込)

2. 試験内容

初段では、化学または分析化学に関連する問題 (基礎) を 25 題、イオンクロマトグラフィーに関連する問題 (専門) を 25 題出題いたします。

基礎は、高校卒業程度の化学の基礎知識を問う内容です。高校での実験、公設試や企業において水質管理項目で対象となるイオンや元素の基礎的な化学的性質について出題します。

専門は、IC を含む分析化学の実務経験が数年程度のものが必要な基礎知識を問う内容です。専門用語、分離機構、カラムと溶離液の関係、サプレッサの基礎等、IC に必要な基礎知識の他に、河川水や工場排水等の一般的な水質検査に用いられる試料前処理等も出題します。

3. 試験方法

これまで対面で行ってまいりました本試験は、リモート方式を

とることになりました。本システムでは、2 つのカメラと 3 つの AI で不正を見逃さないことを特徴といたします。受験者の皆様には初めての試みで不安な点などあると思いますが、何卒ご理解いただけますと幸いです。

リモート web テストの受験に関する詳細は、IC 研究懇談会 HP の IC 分析士のページにあります https://youtu.be/M_UShR7uXRA の動画をご覧ください。

4. 申込方法

オンライン (Microsoft forms)

4-1. 申込手順：イオンクロマトグラフィー研究懇談会 (IC 研究懇談会) のホームページ (<https://www.jsac.or.jp/-ic/>) から入っていただき、トップページの「イオンクロマトグラフィー分析士」の「IC 分析士受験申込」をクリックしてください。これより、申込フォームに入ることができます。必要事項をご記入の上、送信ボタンを押していただきますと完了し、電子メールで申込の完了が通知されます。なお、申込フォームからデータ送信ができない、または申込が完了しているのにメールに通知が来ない場合は、IC 研究懇談会事務局 (ic@jsac.jp) へお問合せください。

4-2. 受験料：本試験の受験料は試験の実施に係る費用に加え、分析士の登録料を含めて 9,900 円 (税込) となっております。本システムを用いた試験では、初段の試験を不合格になった場合、再受験する方の受験料を 5,500 円 (税込) とさせていただきます。

4-3. 受験料支払方法：申込フォームで選択された受験料振込先に 2022 年 1 月 16 日までに振込をお願いいたします。領収書が必要な場合は IC 研究懇談会事務局 (ic@jsac.jp) にお問い合わせください。

4-4. 受験申込期日：2021 年 12 月 24 日 (金) 午後 5 時

5. リモート試験の受験準備並びに試験中のトラブル Q & A

リモート試験の受験準備と試験中のトラブルについては、IC 研究懇談会 HP の IC 分析士のページにあります「リモート試験の受験準備並びに試験中のトラブル Q & A」をご参照ください。

問合せ 〒780-8520 高知県高知市曙町 2-5-1 高知大学理工学部 イオンクロマトグラフィー研究懇談会事務局 森勝伸・森みかる [電話：088-844-8306, E-mail：ic@jsac.jp]

第 11 回分析化学の基本と安全セミナー (オンラインセミナー)

主催 (公社)日本分析化学会

分析化学は、新素材、地球環境・エコロジー、ライフサイエンス、医薬品、医療、法科学、生活・文化などのさまざまな分野の基盤を支える必要不可欠な学問・技術になっています。信頼性の高い分析を行うには、分析化学を扱う技術者の知識と技術が備わること、安全な作業環境や安全な操作管理がなされることが重要なこととなります。

本セミナーは、分析化学の全般にわたる共通的な事項の再確認を行い、安全で信頼性高い分析が行える「分析化学の基本に立ち返って学ぶセミナー」になっています。

今般、コロナ禍における感染への安全を確保するため、オンラインでのセミナーとして開催いたしますので、コンピュータ、スマートフォンあるいはタブレット等の環境が整っていれば自宅あるいは勤務先から長距離移動を気にせずに参加いただけます。関心のある方は是非ご参加ください。

期日 2022 年 2 月 4 日 (金) 9.30~17.15

Web ソフト Zoom

対象者 現場で分析実務を担当している初級技術者及び「分析化学の基本と安全」の習得希望者

お知らせ

目的 分析化学の基本的技術の習得と向上に向けての教育

受講申込締切 2022年1月17日(月)(必着)

募集定員 なし

プログラム (講義時間及び講義順は、変更する場合があります。講義時間には質問時間も含まれます。)

1. (09.30~9.40) 開会のあいさつ
(実行委員長) 平井昭司
2. (09.40~10.35) 溶液の基礎 (千葉大学) 小熊幸一
3. (10.40~11.35) 試薬の利用と管理
(島津総合サービス) 宮下文秀
4. (11.40~12.20) 純水の利用と管理
(オルガノ) 江川 暁
昼休み
5. (13.10~14.05) 準備作業：希釈と洗浄
(産業技術総合研究所) 米谷 明
6. (14.10~15.05) 検量線の作成と検出限界・定量下限値
(イアス) 一之瀬達也
7. (15.20~16.15) 安全な作業環境
(パーキンエルマー・ジャパン) 敷野 修
8. (16.20~17.15) 分析の品質保証
(東京都市大学) 平井昭司

受講料 日本分析化学会会員(個人・団体会員) 20,000円、
会員外 30,000円(税込み)

※団体会員の特別・公益会員は1名のみ会員扱いとします。
維持会員の事業所は複数名受講でも会員扱いとします。

受講証の発行 受講者には「分析化学の基本と安全セミナー」を受講し、講習を受けたことの受講証を日本分析化学会から発行します。なお、受講証はセミナー終了後に郵送いたします。

受講申込方法 日本分析化学会ホームページの「日本分析化学会の行事及び事業」→「行事及び学会の事業」→「講習会・セミナー」ページの「分析化学の基本と安全セミナー」にある「受講申込フォーム」をクリックし、必要事項を記入し、「送信」を押してください。あるいは
<https://docs.google.com/forms/d/1HR6PzKcgIfqsAlin78-WrynJhJWZZAfuNSBmFHVMDmM/edit> にアクセスしてください。

ZoomのURL等の最終案内は会期の数日前頃までにE-mailにてお送りします。なお、電話での申し込みは受け付けません。

送金方法 受講申込をした後、指定口座に受講料を1月20日(木)までにお振り込みください。振込手数料は貴方でご負担ください。なお、受講料の返金はいたしませんのであらかじめご了承ください。

送金先 三井住友銀行 田園調布支店(普通) 1599539 口座名：分析化学セミナー 実行委員長平井昭司(ブンセキカガクセミナー ジョコウインチョウヒライショウジ)

申込・問合せ先 〒146-0085 東京都大田区久が原 6-22-6 第11回分析化学の基本と安全セミナー実行委員会 実行委員長 平井昭司〔電話：03-6410-3818, E-mail：s-hirai@silk.plala.or.jp〕

新型コロナウイルス感染症 COVID-19 の状況により開催等を変更することもあります。最新の情報はホームページを参照ください。

https://www.jsac.jp/conference/service/seminar/1-11_basic_safety/

2021年度第3回近畿支部講演会

主催 (公社)日本分析化学会近畿支部、近畿分析技術研究懇話会

期日 12月3日(金) 15.00~17.00

会場 大阪科学技術センター7階700号室〔大阪市西区靱本町1-8-4, 電話：06-6443-5324, 交通：地下鉄四つ橋線「本町」駅下車、北へ徒歩約7分。うつぼ公園北詰〕

講演

1. 微量金属同位体比分析に基づく大気・海洋化学研究について (15.00~16.00)
(京都大学化学研究所) 高野祥太郎
2. 疾患モデル動物のメタロミクス解析からヒューマン・メタロミクスへ (16.00~17.00)
(京都薬科大学薬学部) 安井裕之

参加費 無料

参加申込 標記行事名を題記し、(1)氏名、(2)勤務先(所属)、(3)連絡先を記入の上、下記申込先へFAXまたはE-mailにてお申し込みください。なお、参加証は発行いたしませんので、当日は直接会場にお越しください。

申込先 〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4 (公社)日本分析化学会近畿支部〔電話：06-6441-5531, FAX：06-6443-6685, E-mail：mail@bunkin.org〕

※新型コロナウイルスの影響により、オンライン開催等に変更する可能性があります。変更などの詳細は、近畿支部ホームページ (<http://www.bunkin.org/>) にてご確認ください。

2021年 POTY 賞受賞候補者の推薦

液体クロマトグラフィー(LC)研究懇談会は、2021年 POTY(Person of The Year) 賞受賞候補者の推薦を受け付けております。POTY賞はLC研究懇談会の発展に大きく貢献した者に授与しますが(年度1件以内)、CERIクロマトグラフィー分析賞並びに液体クロマトグラフィー努力賞の受賞者を授与の対象としません。

推薦を希望される方は、下記2点に留意され、資料を電子ファイル(1ファイル)で提出してください。

1. 受賞者の年齢は問わないが、LC研究懇談会の会員である事が望ましい。
2. 推薦者(または自薦者)は、LC研究懇談会の個人会員とする。

提出資料 推薦者は、A4判サイズに横書きで記入した以下の

- ①~③の資料を、12月5日までに下記提出先に電子メールで送付する。①履歴書(生年月日及び高校卒業以後の履歴)、②推薦理由書、③貢献業績名(40字以内)及びその概要。

資料提出先 POTY賞係〔E-mail：nakamura@jsac.or.jp〕

第2回群馬・栃木分析技術交流会プログラム

主催 (公社)日本分析化学会関東支部、同 群馬・栃木地区分析技術交流会

期日 12月6日(月)~10日(金)

開催方法 本年度の群馬・栃木地区分析技術交流会はオンデマンド形式で開催いたします。

参加申し込み後、主催者より講演動画のリンクが送信されます。

開催期間中にご視聴ください(開催期間後、講演動画は削除されます)。

プログラム

1. 開会の辞
2. 「日本分析化学会関東支部の活動」支部長 山本博之先生(量子科学技術研究開発機構量子ビーム科学部門)(30分程度)
3. 「画像解析から明らかにする細胞モデルの膜変形と内部構造」(45分程度) 夏目ゆうの先生(宇都宮大学共同教育学部)

4. 「GC-MS, LC-MS におけるコッ」—低分子植物ホルモン分析を例に— (45分程度)
本多一郎先生 (前橋工科大学工学部)

5. 閉会の辞

参加申込締切 11月30日(火)

参加費 無料

申込方法 以下の URL より申し込みください。

<https://sites.google.com/view/jsac-gunma-tochigi>

申込先 菅原一晴 [E-mail: kzsuga@maebashi-it.ac.jp], 稲川有徳 [E-mail: ainagawa@cc.utsunomiya-u.ac.jp]

第 366 回液体クロマトグラフィー研究懇談会

主催 (公社)日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会

HPLC/UHPLC は分離分析には無くてはならないものとなっており、HPLC は 1970 年代から、UHPLC は 2004 年以降使用されており、装置・カラム・付属品などの新技術の開発、改良など年々進展しております。本例会ではカラムに特化することなく、装置も含め 2010 年以降の進展状況を講演していただきます。

期日 12月14日(火) 13.00~17.15

会場 Zoom オンライン例会

講演主題 HPLC・UHPLC の進展：新規固定相、アプリケーションなど

講演

講演主題説明 (オーガナイザー) (13.00~13.05)

(株)クロマニックテクノロジー 長江徳和
(LC 分析士二段)

1. コアシェル, sub-2 49nm 粒子がもたらす 3 つのメリット—分離, 時間短縮, コスト— (13.05~13.35)
(Restek(株) 海老原卓也 (LC 分析士二段))
 2. バイオ分野で用いられる種々の固定相の特性と応用例 (13.35~14.05)
(東ソー(株) 伊藤誠治 (LC 分析士五段, LC/MS 分析士二段))
 3. アセチル化シクロデキストリン形キラル固定相の分離特性とアプリケーション (14.05~14.35)
(株)住化分析センター 西岡亮太 (LC 分析士三段)
 4. HPLC-MS, UHPLC-MS における質量分析計の進展 (14.35~15.05)
(エムエス・ソリューションズ(株) 高橋 豊 (LC 分析士二段, LC/MS 分析士五段))
- 休憩 (15.05~15.15)
5. エアロゾルベース NQAD の原理とアプリケーションの紹介 (15.15~15.45)
(株)日立ハイテクサイエンス 清水克敏 (LC 分析士二段, LC/MS 分析士初段)
 6. 測定対象化合物を選ばない最新の Bio LC (15.45~16.15)
(アジレント・テクノロジー(株) 林 慶子 (LC 分析士二段, LC/MS 分析士初段))
 7. SFC における固定相の選び方の提案 (16.15~16.35)
(株)島津製作所 豊田悠介 (LC 分析士初段)
 8. 総括「HPLC・UHPLC の進展：新規固定相, アプリケーションなど」(16.45~17.15)

(東京理科大学) 中村 洋
(LC 分析士五段, LC/MS 分析士五段)

参加費 LC 研究懇談会個人会員：1,000 円, 協賛学会および後援学会 (日本分析化学会, 日本薬学会, 日本化学会, 日本農芸化学会) 会員：3,000 円, その他：4,000 円, 学生：1,000 円。参加申込締切日後の受付はできませんので、ご了承ください。

情報交換会 講演終了後、講師を交えて情報交換会を開催しま

す (会費 1,000 円)。締切日後のご参加はできませんので、参加希望者は必ず事前にお申込みください。

参加申込および参加費等納入締切日 12月7日(火) (入金締切時刻：15時まで)

申込方法 参加希望者は、下記申込先にアクセスし、氏名、勤務先 (電話番号)、LC 会員・協賛学会会員・その他の別及び情報交換会参加の有無を明記の上、お申込みください。お申込みが完了した場合には、登録されたアドレス宛に「第 366 回液体クロマトグラフィー研究懇談会申込み受付 (自動返信)」のメールが届きます。メールが届かない場合は、世話人までお問い合わせください。参加費の納入が確認できた方には、12月8日以降に①例会サイト入場 URL と②「視聴者用操作マニュアル」をお送りします。また、情報交換会参加費納入者には、③情報交換会サイト入場 URL をお知らせいたします。なお、請求書と領収書の発行はいたしていません。領収書は、振込時に金融機関が発行する振込票等をもって替えさせていただきます。

申込先 <https://forms.gle/z5oGcRZxXJ3MucqT7>

銀行送金先 りそな銀行五反田支店 (普通) 0802349 口座名
シャ)ニホンブシセキカガクカイ

[(公社)日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会]

問合せ先 (公社)日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会 [世話人 (株)クロマニックテクノロジー 長江徳和
E-mail: nagae@chromanik.co.jp]

——以下の各件は本会が共催・協賛・ 後援等をする行事です——

◎詳細は主催者のホームページ等でご確認ください。

2021 年度公益社団法人日本金属学会関東支部 講習会 『水素社会と金属材料の関係』

主催 (公社)日本金属学会関東支部
期日 10月29日(金), 11月5日(金), 11月12日(金),
11月19日(金), 11月26日(金)
会場 オンライン
ホームページ
https://jim.or.jp/INFO/pdf/info_502.pdf
連絡先 〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大
学院工学系研究科 マテリアル工学専攻 日本金属学会関東
支部事務局 中屋〔電話・FAX:03-5841-7107, E-mail:
nakaya@wood3-staff.t.u-tokyo.ac.jp〕

第45回顔料物性講座 SDGs 達成に関わる顔料物性

主催 (一社)色材協会
期日 11月19日(金)
会場 オンライン開催
ホームページ http://www.shikizai.org/seminar/seminar_kouen.html
連絡先 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿3-12-8 東京塗料
会館201 (一社)色材協会〔電話:03-3443-2811, FAX:
03-3443-3699, E-mail:info@jscm.or.jp〕

腐食防食部門委員会第339回例会

主催 (公社)日本材料学会
期日 11月19日(金)
会場 オンライン開催
ホームページ <http://www.jsms.jp>
連絡先 〒606-8301 京都府京都市左京区吉田泉殿町1-101
(公社)日本材料学会〔電話:075-761-5321, FAX:075-
761-5325, E-mail:jimu@office.jsms.jp〕

センサ&IoT コンソーシアム公開シンポジウム2021 「新しい時代の生活様式を支えるIoT技術と 行動変容を支えるセンサ技術」

主催 センサ&IoT コンソーシアム
期日 12月2日(木)
会場 オンライン開催 (Zoom)
ホームページ <https://www.sensoriot.jp/events/>
連絡先 センサ&IoT コンソーシアム事務局

nano tech 2022 国際ナノテクノロジー総合展・ 技術会議

nano tech 2022 International Nanotechnology
Exhibition & Conference

主催 nano tech 実行委員会

期日 2022年1月26日(水)~28日(金)
会場 東京ビッグサイト
ホームページ <http://www.nanotechexpo.jp/>
連絡先 〒105-8335 東京都港区芝3-23-1 セレスティン芝
三井ビルディング (株)JTBコミュニケーションデザイン
内) nano tech 実行委員会事務局〔電話:03-5657-0623,
FAX:03-5657-0645, E-mail:nanotech@jtbcom.co.jp〕

日本学術会議フォーラム 「ゼロカーボン社会を支える最先端分析技術」

主催 日本学術会議
共催 (公社)日本分析化学会, (公社)日本化学会, (公社)日
本工学アカデミー, (一社)日本分析機器工業会
期日 11月11日(木)
会場 オンライン開催
ホームページ <https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0003.html>
連絡先 日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当〔電
話:03-3403-6295〕

「分析化学」編集委員会特集 “分離分析の進展”の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」誌では、毎年第6号に「編集委員会特集」として特集号を企画しています。2022年度（第71巻）の「編集委員会特集」のテーマは、『高感度解析に寄与する分離分析技術』に決定いたしました。分析技術は種々の分野における基盤技術であり、新たなサイエンスを切り拓く原動力として重要な役割を果たしてきました。近年、質量分析装置の発展は目覚ましく、各分析機器メーカーから販売されている装置を購入すれば高感度かつ精密に、その質量を測定することが可能となっています。また、操作性、利便性、迅速性も格段に向上しており、もはや検出器として質量分析装置を用いることがスタンダードとなりつつあります。質量分析装置と同様に各検出器の感度も飛躍的に上昇していることを鑑みると、質量分析装置を含めた、これら最新の検出器に目的とする分析対象物をいかにして高純度に届けるかが課題として挙げられます。

上記状況に鑑み、本特集では、高感度解析に寄与する分離分析技術と題し、クロマトグラフィーや電気泳動などの分離分析を対象とした研究に着目することとしました。新たなサイエンスを切り拓くための分離技術、新素材での新しい分離様式およびその応用に関する論文の投稿をお待ちしております。また、「若手研究者の初論文特集」への応募資格を満たしている方は、本特集論文と兼ねて投稿していただくこともできますので、若手の研究者の皆様のご投稿もお待ちしております。

詳細は「分析化学」誌の6号及びホームページを参照ください。

なお、原稿締切日は12月3日（金）です。

「分析化学」年間特集“省”の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」では2010年より「年間特集」を企画しており、2022年度は「省」をテーマとすることと致しました。

世界の総人口は現在約78億人となり、人々が健康で豊かに暮らしていくためには、限られた資源を有効に活用することが不可欠です。また、誰もが高度な科学技術や医療技術の恩恵を受けられるよう工夫することは、持続可能な開発の理念に資する、転じて我が国の近現代史を顧みますと、少ない資源の元での効率の良い技術開発はお家芸と表現しても過言ではなく、分析化学の分野においても、新しい分析方法・技術の開発や改良を通して、複雑化・多様化した現代社会に大きく貢献しているところで。

こうした背景から、本特集では「省」をキーワードとして分析化学における基礎・応用を含めて幅広い観点で見渡し、分析化学が担う役割を社会に向けて発信することを目的としています。国内外、産学官を問わず、「省」に関わる分析化学の研究・開発に従事されている多くの皆様方からの投稿をお待ちしておりますので、是非この機会をご活用ください。なお、詳細は「分析化学」誌の9号及びホームページをご参照ください。

特集論文原稿締切：2021年11月12日（金）（第2期）

初めて書く論文は母語の日本語で！ “第21回若手研究者の初論文特集”募集のお知らせ

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会では、2022年（第71巻）に第21回「若手研究者の初論文特集」を企画します。卒研究生、修士・博士課程院生並びに若手研究者の方々にとって、ご自分の研究

成果を日本語で投稿できるよい機会です。なお、2019年より本特集を年間特集とし、都合の良いときに執筆して投稿できるようにしました。年間を通して論文原稿を受け付け、審査を経て掲載可になり次第随時掲載いたしますので、奮ってご投稿ください。

なお、詳細は「分析化学」誌HPをご参照ください。

「分析化学」の掲載料についてのお知らせ

「分析化学」誌では、2020年4月より論文掲載料を以下の計算式にしたがってお支払いいただき、pdfファイルを進呈することになりました。なお、論文の別刷を希望される場合は、別途別刷頒布料をお支払いいただくことにより購入することができます。

掲載料金計算式（P：印刷ページ数）（単位：円）

会員の場合：30,000+5,000×(P-4)（印刷ページ数が14ページ以上は一律80,000円）

会員外の場合：40,000+5,000×(P-4)（印刷ページ数が14ページ以上は一律90,000円）

*上記に消費税がかかります。

「Analytical Sciences」別刷頒布価格のお知らせ

「Analytical Sciences」掲載の投稿論文の別刷頒布価格は下記のとおりです。

1. 頒布部数：50部を最小単位とし、以降50部単位で頒布します。
2. 価格：次の計算式に従って算出された値（円）。

$$20000 + 2500 \times p + 25 \times p \times (n - 50)$$
 但し、 p は掲載論文の印刷ページ数で、奇数の場合には1を加えた値、 n は別刷希望部数。
3. 消費税10%がかかりますので、ご了承ください。

ぶんせき誌「技術紹介」の原稿募集

『ぶんせき』編集委員会

分析化学は種々の分野における基盤技術であり、科学や産業の発達・発展だけでなく、安全で豊かな生活の実現に分析機器が大きく貢献してきました。近年の分析機器の高性能化・高度化は目覚ましく、知識や経験がなくても、微量物質の量や特性を測定できるようになりました。この急速な発展は、各企業が持つ高度で多彩な技術やノウハウによって達成されたといっても過言ではありません。一方、高度化された分析機器の性能・機能を十分に発揮させるためには、既存の手法に代わる新規な分析手法が必要であり、高度な分析機器に適合した分析手法や前処理手法の開発が分析者にとって新たな課題となっています。また、分析目的に合致した高純度試薬の開発に加えて、測定環境の整備、試薬や水の取り扱いなどにも十分な配慮が必要です。極微量の試料を分析する際には、測定原理を把握すると共に、手法や操作に関する知識・技能を身に付ける必要があると考えます。

このような背景に鑑み、『ぶんせき』誌では新たな記事として「技術紹介」を企画いたしました。分析機器の特徴や性能、機器開発に関わる技術、そしてその応用例などを紹介・周知することが分析機器の適正な活用、さらなる普及に繋がると考えており、これらに関する企業技術を論じた記事に掲載することといたしました。また、分析機器や分析手法の活用・応用における注意事項、前処理や操作上のコツなども盛り込んだ紹介記事を歓迎いたします。これらの記事を技術紹介集として、『ぶんせき』誌ホームページ内に蓄積することで、様々な分野にお

ける研究者や技術者に有用な情報を発信でき、分析化学の発展に貢献できるものと期待しております。分析機器や分析手法の開発・応用に従事されている多くの皆様方からのご投稿をお待ちしております。

記

1. 記事の題目：「技術紹介」
2. 対象：以下のような分析機器、分析手法に関する紹介・解説記事
 - 1) 分析機器の特徴や性能および機器開発に関わる技術、
 - 2) 分析手法の特徴および手法開発に関わる技術、
 - 3) 分析機器および分析手法の応用例、
 - 4) 分析に必要な試薬や水および雰囲気などに関する情報・解説、
 - 5) 前処理や試料の取扱い等に関する情報・解説・注意事項、
 - 6) その他、分析機器の性能を十分に引き出すために有用な情報など
3. 新規性：本記事の内容に関しては、新規性は一切問いません。新規の装置や技術である必要はなく、既存の装置や技術に関わるもので構いません。また、社会的要求が高いテーマや関連技術については、データや知見の追加などにより繰り返し紹介していただいても構いません。
4. お問い合わせ先：日本分析化学会『ぶんせき』編集委員会 [E-mail: bunseki@jsac.or.jp]

『ぶんせき』再録集 vol. 1 出版のお知らせ

ぶんせき誌の過去記事の有効利用の一環として、記事をまとめて書籍化するという試みを行っています。2021年5月10日に、『ぶんせき』再録集 vol. 1 が出版されました。

この巻には、2011年から2020年まで、10年間分の〈ミニファイル〉の記事が詰まっています。たっぷり256ページ、2,750円(税込み)のお値打ち本です。多岐にわたる『知って得する 分析化学の豆知識』を堪能できます。

本書は下記10章からなり、それぞれに12から14の話題が集められています。

1. 実験器具に用いられる素材の特徴
2. 分析がかかわる資格
3. 顕微鏡と画像データ処理
4. 最新のweb文献検索データベース
5. ポータブル型分析装置
6. 分析化学と材料物性
7. 分析化学者のための多変量解析入門
8. 土壌分析
9. サンプリング
10. 前処理に必要な器具や装置の正しい使用法

過去のミニファイルをファイリングしておきたいときに、初学者への参考書をお探しのときに、また、非学会員の方に分析化学会のアピールをしたいときに、ぜひご活用ください。

本書はアマゾンオンデマンド出版サービスを利用して出版した書籍ですので、書店には並びません。アマゾンサイトからのネット注文のみとなりますので、ご注意ください。ネットで「ぶんせき 再録集」と入力して検索しても、すぐに出てきます。詳しくは「ぶんせき」誌ホームページをご確認ください。

「お知らせ」欄原稿について

支部並びに研究懇談会の役員の皆様：掲載用の原稿ファイルをどうぞ電子メールでお送りください。送り先はshomu@jsac.or.jpです。原稿の長さには制限はありませんが原稿締切日は掲載月の前々月25日(例：1月号掲載→11月25日締切)となっておりますのでご注意ください。

本会外から掲載をご希望の場合は以下をご参照ください。

- 1) 掲載できるものは本会が共催、協賛、後援するものに限られます。
- 2) 国際会議につきましては共催、協賛、後援申請に関する規程並びにフォームがありますので、ホームページをご覧ください。ただ、本会事務局宛にお問い合わせください。
- 3) 国際会議以外の講演会等に関しましては、会名、会場、主催団体名、同代表者名、開始期日、終了期日、連絡先並びに同電子メールを記載のうえ、書面でお申し出ください。
- 4) 掲載原稿の作成要領に関しましては承諾をご返事する際にお知らせします。
- 5) 本会支部または研究懇談会が共催、協賛、後援を承諾した事業につきましては、その旨をメールにお書きいただき、原稿ファイルをshomu@jsac.or.jpにお送りください。

国際会議以外の共催、協賛、後援に関する規程抜粋(共催)

8. 討論会、講演会等の共催とは、その討論会、講演会等の開催について、本会は主体性を持たず、会誌等を通じて広報活動等の援助を行う場合をいう。
9. 本会が討論会、講演会等を共催する場合は、その討論会、講演会等の主要議題が本会の専門分野と関連を持ち、本会正会員が会議の準備、運営等の委員に若干名加わることを条件とする。
10. 本会が共催する討論会、講演会等に対しては、他学協会長等の申し出によって会誌等による広報活動の援助を行う。特に理事会の承認を得て分担金を支出することがある。(後援又は協賛)
11. 討論会、講演会等の後援又は協賛とは、本会がその討論会、講演会等の開催に賛同し、後援又は協賛団体の一つとして、本会名義の使用を認める場合をいう。
12. 本会が討論会、講演会等を後援又は協賛する場合は、その討論会又は講演会が分析化学に関連を持ち、その開催が本会会員にとっても有意義であることを条件とする。
13. 本会が後援又は協賛する討論会、講演会等に対しては、希望に応じ会誌等による広報活動の援助を行うことがある。